

劇団 態変

一心寺シアター提携公演／大阪市助成公演

1995年5月20日(土) 7:00 pm
21日(日) 1:00 pm / 5:00 pm

一心寺シアター

作・演出 金満里

「ダ・キ・シ・メ・タイ!!」

劇団**態変** 一心寺シアター提携公演／大阪市助成公演

「ダ・キ・シ・メ・タイ!!」

作・演出 金満里

【社】企業メセナ協議会認定

協賛／／HI/EIDO

大阪ガス“小さな灯”運動

日本電通建設株式会社

金満里

なにかが変わるさざしを感じ始めたのが去年、コラボレーションとシンポジウムの企画『そろそろ未来をつかみませんか!?』の始まりであって、イメージの門出でした。

人間の感情を支配しているのは、宇宙との不思議なバイブレーションではないか、という私の直観の旅はつづきます。人間の根源へのあくなき探求は、宇宙に生かされた存在としての神秘を追い求め、今、人間感情のエゴに行き当たっています。

未来は来るのか、人類はどこへ行くのか、命題は尽きません。しかし、生きることを任されたものは生きなければならない、これだけははっきりしています。誰に何といわれようとも、生き様をさらして生きていかなければならない。この大いなる恥と猛々しさをもって、掴まえていかなければならないものがある。

その中にきっと、宇宙に生かされている答え、があるのかもしれない。

人間の持つ荘厳さも猥雑さも、大いなる包容と未来に向かって、**ダ・キ・シ・メ・タイ!!**

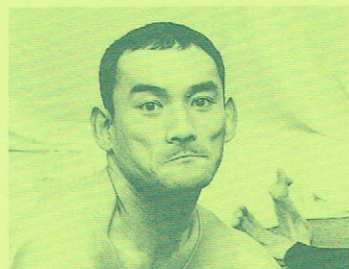


紺谷佳清

舞台のまん中にころがってわけのわからんことを喋っていた紺谷です。今回は、せりふを沢山もらって困っています。

「こんな長いせりふ誰が言うの?」と、きいたら、みんなから「お前が言うねん!」と突っ込まれてしまいました。劇団のみんなにも迷惑をかけて、「これでは、稽古ができない!」と言われて続けても、覚えられないものはしかたがない。

でも、なんとか覚えてやりますので、もうまくできなかつたらゴメンネ!!



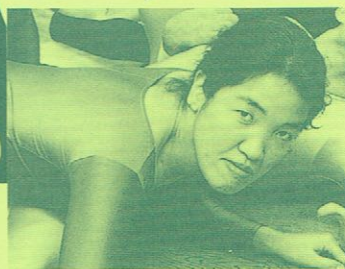
米玉利祐資

今回2年ぶりの舞台でドキドキワクワクしています。昨年は仕事の都合で休みましたが、少し寂しく物足りない年でした。今回は悩みましたが、やりたい気持ちが盛り上がり、今回やらせてもらうようになりました。今回の舞台は今までと少し違った面があり、態変も新しい物への挑戦の舞台だと思いますので、この舞台を思う存分楽しんで行って下さい。



小泉ゆうすけ

3年くらい前の事だったと思う。遊びで、何気なくやってみた『前世占い』で出た僕の前世はなんと、修業僧だとゆうことだった。その頃の僕は、学童保育所の指導員とゆうエラそうな給料の安い仕事をしていて、仕事がおわると毎日毎晩にがにおこっても遅くまであそんでから帰る破戒僧の生活を送っていたのでまったくピンとこなかった。しかし、最近、ケニア公演以降なんとなくきびしくなってゆく態変のケイコ、および私生活、とゆうものにほんの少しハードなヨロコビ、のようなものを感じて、その度に、『前世占い』のはなしを思いだしてしまう。こんなが、前世で感じていた修業のヨロコビ、なのかもしれない。そんなわけで、以前よりはほんの少し、積んだ修行の成果のようなものを出せれば、と思っています。



井上朋子

田舎と都会、アナログとデジタル、農民と遊牧民、緑と赤、弥生人と縄文人、……いろいろな要素の中間で、引き裂かれるように揺らぎながら存在している自分自身。

自分のポリシーやアイデンティティーという言葉にうっとりした二十歳の頃もありました。その頃に較べると、『一概には言えないよね。』と、なんだか曖昧ににっこりしてしまうことが多くなったような気がします。でもその頃よりは、はっきりと刻みこまれた怒りや哀しみや喜びの感情も心の中には渦巻いています。いつの場合でも、より曖昧になるのではなく、いろいろな要素を含みながら、具体的な自己実現としての表現をしていかなあかんよね。と、めずらしく焦っているきょうこの頃ののんびり屋のわたしです。

李義明

ぼくは、大阪の住吉区に住んでいる李義明です。げきだんに入って、かれこれ15年になります。それまで色々しいの中であれこれ色々なくいでいたけど、そのげきの中で、ぼくじしんで、でんどうくるまいすのうごき方やセリフをかえて、アドリブでやったこともありました。それと外国のアフリカのケニアにいったときのおしばいは、ぼくじしんかんげきをしました。またいつか外国へいっておしばいをやってみたいと思っています。5月20と21日のこうえんでは、これまでになかったかめんをかぶるシーンがあります。ぼくもがんばってうごきまわるので、たのしんでみてってくださいね。

ぼくは住吉の遠里小野の車いす住宅に住んでいます。ひまがあればかいごにきてください。



北角和恵

始まりもなく、終りもない世界。刻一刻とその姿を変えながら、ただ延々と道が連なっていく。それでも私は探してしまふ。一体、自分はどこから来たのだろうか。どこへ行こうとしているのだろうか。

昔の人は言った。「ゆく河の流れはたえずして、しかももとの水にあらず」とか。世の中、わけのわからないことばかりだ。だからいいのかもしれない。

ずっと流れを見つめながら、演じていきたい。そうできたらいいなあと思っています。



松葉さとみ

私はいつも芝居の本番は、目が見えないのです。ぼおとしか見えません。だから芝居ができるのかもしれない。見えなくて、人を意識しなくて自分の欲求をぶつけて踊る、でも見えなくても、見えないながら客を、どこかで意識してるのでしょうか？

今度舞台に上がって、お客の顔を見たいと思って、コンタクトレンズを付けたいという思いで、つかしんにある専門院に駆けつけた。医者が「障害者のくせに、コンタクトレンズなんて」という態度なので少し頭にきたが、看護婦さんはいい人で、何回も挑戦したけど、コンタクトレンズをいれる時に、すぐに目を閉じてしまふ。疲れてあきらめてしまった。この時ばかりは、落ち込んでしまった。ああやっぱり私は障害者なんだと又自覚をしてしまった、私です。



福森慶之介

94年の5月に大野一雄さんと一緒にさせてもらってから丸一年ぶりの舞台です。その間、9月の『霊舞一地中花』では舞台に上らず客席の後ろで生の音楽を川口雅明さんと二人で担当しました。それだけに丸一年ぶりの身体表現は日が迫るにつれ緊張感が高まるようです。

毎年、桜の頃は花粉症で体調が最悪になり、5月の連休もすぎてだんだんと元気が出てくるのです。そんな時は感受性が少しばかりアップするようです。「元気で舞台に出られた喜びだけしか出ていなかった」ということにならないような表現をと思っています。

最後に「霊舞一地中花」のライブ録音がCDになり発売されました。ぜひともお求め下さい。

木村年男

ぼくは1956年に京都市で生まれ、赤ん坊の時に森永と素ミルクの被害を受けました。ずっと自宅で両親と一緒にすごしていましたが、今から9年前に自立を決意、介護者と一緒にアパート暮らしを始めました。4年前には西陣の公団住宅に引っ越しました。家探しの時は本当に苦労しました。ぼくは昼間は「デイサービス・あすなろ」に通っていますが、日曜と火曜は休みなので、町に出て介護者募集のビラをまいたり、買い物をしたり、態変の練習に行ったり、家でくつろいだりしています。いまぼくがいちばん困っているのは、介護者が足りないことです。今年の3月、学生の介護者が一度にたくさん卒業して辞めてしまったので、介護のローテーションが穴だらけになってしまいました。一人でいるとトイレにも行けません。態変の練習にも行けません。みなさん、ぜひ介護に入って下さい。



宮崎幸子

ちかごろ、態変はすごいきおいで、アメーバのように成長していると思います。私もすごいきおいで、その中のひとりとして成長してきたことを、すごく感謝しています。また、アメーバのように何回も復活できたらいいなあと思っています。これからも態変とともに、よろしくお願いします。

(都合により、宮崎幸子は今回休演になりました事を、お詫びします。)

劇団態変プロフィール

作・演出・役者は身体障害者のみで構成し、
「障害者の身体そのものに最大の表現力がある」として結成。
「指一本動けば自らと宇宙を表現できる」という考えのもと、
活動を行っている。

1983.6 『色は臭へど』京都・大阪連続公演で旗揚げ

以降、年1〜2回のペースで、大阪・京都・東京など各地で公演

1989.6 『銀河叛乱'89一月に接吻しただけなのです』伊丹

言葉ではなく、役者の身体の動きで表現する舞台作りへと移行

'91同作品で東京公演を行い、大阪でも野外公演ほか、意欲的に公演を続ける

1992.9 『天国の森』ケニア

1993.10 『「天」3部作〜人は誰も心に森をもっている〜』一挙上演 伊丹

1994.5 劇団態変 & 大野一雄コラボレーション『山が動く』伊丹

1994.9 ソロ×2『霊舞〜地中花』大阪

TAIH N E

スタッフ

作・演出／金満里

舞台監督／塚本修

照明／塩地信朗

演奏／山崎晃男、森定道広、小川真由子

音響／秘魔神

舞台美術／吉田頭

大道具／宮島一郎、仙城真

衣裳／米良実紀子、大須賀千乃

メイク／倉橋かおり

黒衣／米良実紀子、近藤建、上田彩子

上野由紀子、植村哲也、徳岡信英、福島敦雄、山田香織

楽屋付／くぼたますみ、柳本志穂子

記録／写真／垂水章 ビデオ／井上真紀子

宣伝美術／下東英夫

受付／西村文

制作／さとうたかこ、井上朋子

企画・製作／イマージュ

以上のほか舞台・介護・受付スタッフなどに、
多くの方たちのご協力を得て、今回の公演は実現しています。

劇団態変／イマージュ

〒530 大阪市東淀川区淡路5-1-11

TEL・FAX／06-320-0344